

Q&A



講演講師の松木紀子先生にお答えいただきました。

Q-1 保護者と子ども参加型のレクリエーションについて

Q 「私の地域では、保護者又は、保護者と子どもを対象とした事業を実施しています。特に、保護者と子ども参加型で実施できるレクリエーションを教えてください。」

A

子どもたちと保護者が一緒にできるレクリエーションといっても 特別なことを考えなくてもいいと思います。動画で紹介しているレクリエーションでしたら世代を気にせず楽しむことができます。

また、保護者とその子どもが同じチームになるよう編成すれば、みんなで協力して楽しむことができます。達成感を味わえるような進め方を工夫するといいですね。

例えば、紙パックタワーなら各チームで

- ①子どもだけで挑戦する。
- ②保護者だけで挑戦する。
- ③子どもと保護者と交互にトライする。

というように 1 つのゲームをいくつかのパターンで挑戦すると、うまくいくコツや励ましなどの声が出始め、チームワークも深まっていくでしょう。

さらに、チームごとに競うのではなく、1 回目の記録が出たら、2 回目はそれを上回るように頑張る、などの目標を設定すれば、それぞれのチームで達成感を感じることができるでしょう。

子どもたちが頑張っている姿を保護者が見てくれたり、保護者の活躍を子どもたちが見ていたりするのはとてもいいことだと思います。

Q-2 子どもへのレクリエーションの説明のポイントは？

Q 「レクリエーションをする時の説明をどのように進行していけばよいか聞きたいです。工作教室を行っているのですが、なかなか子どもたちが説明を聞いてくれず、すぐに質問してきます。考えもしないですぐに分からないと言って、なかなか前に進んでいきません。子どもたちへの説明のポイントを教えてください。」

A

ゲームの説明をする時には、見本をこまめに示すことが効果的です。言葉だけでは分かりづらいうすし、子どもたちの注意を引くことが難しい場合があります。一つ説明したら分かっているかどうかを目視でいいですから確認してみてください。ほとんどの子どもが理解していることが分かれば、次へ進むといいでしょう。

また、気になる子どもには、専属のスタッフを一人配置し、その都度説明を補足してもらうのも一つの方法です。一人の子どもの質問ばかりに対応していると、ほかの子が飽きてくることもありますから、たくさん質問してくる子どもには、逆に「どうしたらうまくできるのかなあ？」など質問してみるのも考えさせる手立てになるかもしれません。いい考えを発表したら褒めてあげてください。その時

うまく答えられなければ「じゃあよく説明を聞いてね」とか、「困っているところはどこ?」「どこが分からないの?」など質問して促してみるのも一つの方法です。

努力をせずに結果を求める子どもたちがいたら、上手にできている子どもを示し、その子の様子をよく見て考えてみることや、支援員の皆さんがヒントを出して考えさせたり、練習させたり、少しずつ習慣付けをしていきましょう。その子が、上手にできたところを見つけたら、すぐに褒めてあげましょう。

Q-3 子どもの接し方について

Q 「心理学の観点から、裏付けされた子どもたちへの接し方やレクリエーションがあれば教えてください。」

A

子どもたちとうまくコミュニケーションをとるためには、意思疎通を図ることです。そのためには「共感」することがとても大事になります。子どもたちが今どんな気持ちでいるのか、どんな悩みを抱えているのか、何かうれしいことがあったのか、最近上達したことがあったのか・・・など、ふとした会話の中に大事なことが含まれていることがあります。その気持ちを分かってあげてください。そうすると自然に心を開いてくれるでしょう。

仲良くなるための特別なレクリエーションはありません。まず子どもたちと一緒にゲームを楽しむことです。そして頑張った気持ちやうれしい気持ちを共有することです。残念だったときには悔しい気持ちを共有して今度頑張ろうというエネルギーにみんなで変えていくというように、その時の子どもたちの心に寄り添う言葉掛けをすれば、少しずつ心の距離も縮まってくるでしょう。特定のゲームを考えるのではなく、実施しているゲームの中で、応援したり、励ましたり、褒めたり、認め合ったりする。そんな場面を積み重ねていってください。

また、レクリエーションを楽しむためには子どもたちの発達段階を知っておくことも大切です。

興味のある方は、動画でも御紹介した「マズローの5段階欲求説」や「エリクソンの発達理論」等も参考にされるといいでしょう。今何が必要なのかを探るヒントになります。



Q-4 その他のレクリエーションについて



Q 「机の上で、一人でできるゲームや遊びがあれば、教えてください。」

A

最近の子どもたちの中には、遊び方を知らない子どももいますが、よく観察していると、子どもたちは鉛筆 1 本、紙 1 枚で遊んでいたりと、音楽がかかれば何かしらの動きを始めていたり…。そんな姿を見たり感じたりしたことはありませんか？支援員さんが新しいゲームをいつも提供するのではなく、楽しそうに遊んでいる子どもたちを見かけたら、それを紹介して、みんなでチャレンジしてみるのもいいでしょう。

ひとりのできるレクリエーションとなると個別の対応も考えられます。そう考えると目的によって選択する内容が違ってきます。何かスキルを身に付けさせたいとき、ただ時間を持て余しているとき、誰かとトラブルになってひとりぼっちで落ち着かないとき、友達がなくていつもひとりであるときなど…様々な場面が想定されます。目的にあった活動を考えてみてください。いつも新しいものでなくても、その子の好きなこと、得意なことをゲームにすれば積極的に活動し始めると思います。動画で紹介した「豆つまみ皿うつし」などのように結果を記録できるものは、その都度スコアを記録していくことができます。そうすると上達の度合いがよく分かり、やる気が出てきます。ゲームのヒントは日常生活の中にもたくさんありますよ。

レクリエーションは「心を元気にすること」です。子どもたちが楽しい気持ちになれるようレクリエーションでサポートしてください。

Q 「その他のレクリエーション例を紹介している動画があれば教えてください。」

A

最近では様々なアイテムでゲームが紹介されています。

日本レクリエーション協会のサイト「[レクぼ](#)」に登録すればゲームを検索することができます。

レクリエーションにもっと興味をもたれた方は、愛媛県レクリエーション協会にお問い合わせください。毎年[レクリエーション・インストラクター養成講習会](#)を開催しています。御要望に応じて講師派遣を行っていますし、レクリエーション支援の御相談にも対応しています。また、レクリエーション用具の貸出もしています。HP でも講習会等を御案内しています。

いつでもお気軽に御相談ください♪



♪♪ NPO 法人 愛媛県レクリエーション協会 ♪♪

松山市上野町甲 650 番地

Tel・Fax : 089-963-1993

<http://www.ehimerec-or.jp/>

M-mail : ehimerec@joy.ocn.ne.jp